

営農経済涉外

Farming information

営農情報

2017
7月号 No.59



J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課
TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

今月の話題

◆ 気候変動に負けない栽培管理

- ・ 今年の気象傾向の把握
- ・ レーク伊吹管内の生育状況の把握
- ・ 高品質米に向けた取組みと対策

◆ 農作業に潜む身体リスク～第二弾～

◆ 農政ダイジェスト

農家所得増大
"コシヒカリプレミア88"
チャレンジ!

メモ

- ✓ ケット製穀類水分計
点検受付中 7月26日まで
- ✓ 家庭菜園用肥料農薬申込受付中!

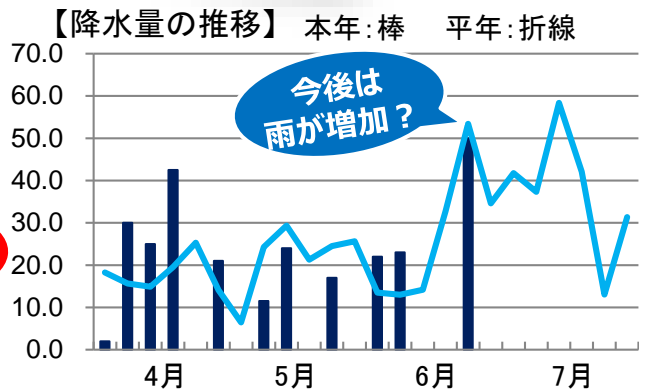
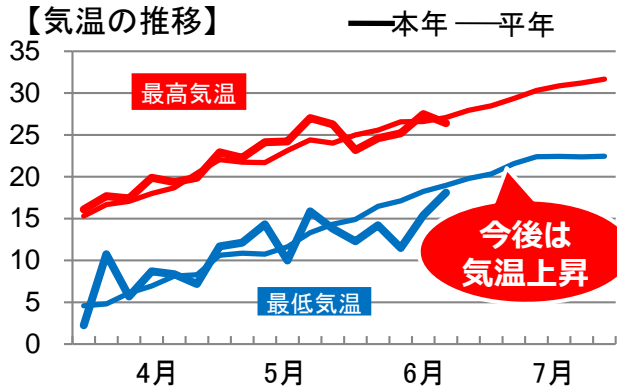


水稻栽培技術講習会に参加し、実際に今年のみずかがみの幼穂を確認しました。
幼穂確認や穂肥時期の相談いつでもお待ちしております。
お気軽にご連絡下さい。

気候変動に負けない栽培管理



今年の気象傾向を把握する



NEWS

高温に関する異常天候早期警戒情報

【大阪管区气象台 6/26発表】

警戒期間 7月1日頃～

対象地域 近畿地方

警戒事項 かなりの高温

(平均地域平年差+2.4℃以上)

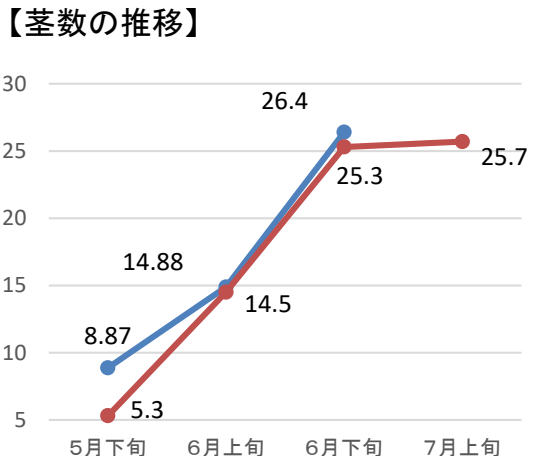
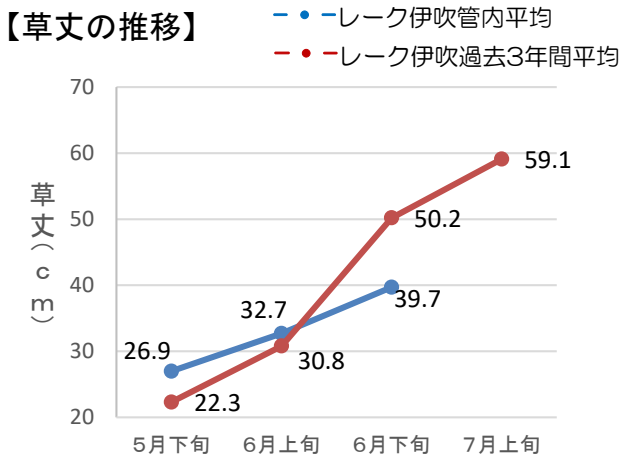
猛暑注意

近畿地方1カ月予報

【大阪管区气象台 6/22発表】

- ✓ 平年に比べ曇りや雨の日が多い
- ✓ 向こう1カ月の降水量は、平年並みが多い
- ✓ 日照時間は、平年並みか少ない

レク伊吹管内の生育状況を把握する



- ✓ 草丈は平年よりも短い、茎数は6月中旬から急増
- ✓ 5月上旬植えでは生育は平年並、5月中下旬植えではやや遅れ
- ✓ 移植日や圃場の条件により生育差があり

ほ場巡回の
ポイント

田面のヒビ割れ
乾き過ぎ



ほ場巡回の
ポイント

過剰な分けつ
による過繁茂



高品質米に向けた取組みと対策

☑ 湛水管理

大きなヒビが入ると根が切れたり、土の保水性が悪くなります。登熟期の水不足に注意が必要です。出穂前後3週間は湛水管理を実施しましょう。

乳白粒や胴割米の発生を抑える効果あり。

湛水管理パトロール実施中

☑ 生育に応じた穂肥の施肥

乳白粒や未熟粒の軽減対策は、登熟後期まで栄養状態を維持することです。穂肥時のタイミングと量を把握しましょう。特に生育旺盛で籾数過多の場合は注意が必要です。幼穂を実測で確認することで、早期に収穫に向けての計画が立てられます。

【一般的な穂肥え時期の目安】



参考

5月10日植え予測日

幼穂形成期→7月6日

出穂期→7月30日

【一般的な穂肥量について】

2回に分け窒素成分で合計4.0Nkg施肥

幼穂形成期に確認しよう

1. 株張りはどうか？

60株植え/坪で、
茎数25本以上→大、20～25本→中、20本以下→小

2. 葉色はどうか？

葉色値(カラスケール値)で3.5以上？以下？

それぞれの条件により、散布適量・量が異なります。

詳しくは
営経渉外まで

☑ 病害の防除

分けつが増え、茎数が多くなることで、風通しが悪くなります。湿気が溜まり高温になり、病害の好発生条件になりやすいので注意が必要です。

いもち病

曇雨天が多いと多発。密植の場合や多肥は発生を助長する。既に箱剤などを施肥した圃場は、葉いもち防除の必要性は低い。



出穂30日前～5日前まで

紋枯病

前年多発した圃場ではとくに注意。薬剤は株元までよくかける。



出穂30日前まで

水稻いもち病発生予測システムBLASTAM

県内のアメダスデータ（気温、降水量、日照時間、風速）を利用して、いもちの感染に好適な条件が県内で現れたかの判定を行っています。

6月26日に長浜・米原地域を含む県内全域でいもちの好適条件である発表がありました。

今後の気象に注意

農作業に潜む身体リスク ～第二弾～

農作業には身体へのリスクになるものが多く潜んでいます。よく注目されがちなのは、機械作業事故ですが、そのほかの身体へ影響を及ぼすものにも注意する必要があります。今回は、農作業の環境と熱中症の兆候について説明します。



① 農作業の環境

農業機会が高性能化・複雑化・大型化して、農業の機械化がすすむにともなって、事故が発生するようになってきました。

人的要因	機械的要因	環境的要因
1.知識の不足 2.安全性を欠く行動 3.健康状態の不良	1.操作の複雑さ 2.故障 3.振動や騒音	1.不良気象 2.採光・換気 気温の不適 3.不自然な作業姿勢

農作業による死亡事故は、65歳以上の高齢者が全体の**84%**を占めています。

事故の原因は、これらの3要因が考えられます。事故防止には一人一人が高い安全意識を持って作業を行うことが重要です。

② 熱中症

いち早く熱中症だと気付いて対処すれば重症にならずにすみます。そのために、熱中症の**サイン**を知っておきましょう。

- ✓口が強く渇く
- ✓めまい・立ちくらみがする
- ✓生あくびが頻発する
- ✓汗が出すぎたり、出なくなったりする

要注意!



6548人 13.0%	18150人 35.8%	25228人 50.0%
満7歳～満17歳	満18歳～満64歳	高齢者 満65歳以上
7333人 13.1%	19998人 35.8%	28016人 50.2%

H27年H28年ともに熱中症患者の半分以上が65歳以上の高齢者によるものです。

ひと月の動き

農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋
～定価(税込)606円 購読申込受付中～

アメリカ抜きのTPP発効、隔たり大きく

TPP(環太平洋連携協定)の事務レベル会合が、2日からカナダ・トロントで開かれた。アメリカ抜きの11か国での発効に向けて、今後も協議を続けることを確認したが、12か国での合意内容を維持するののかといった意見の隔たりが大きく、今後の調整は難航しそうだ。

GAP認証取得件数を3倍に

自民党は、GAP(農業生産工程管理)など、農産物の規格・認証に関する提言をまとめた。GAP認証の取得件数を3倍以上にすることや、JAS(日本農林規格)で20以上の新規規格をつくることなどを掲げた。同党は、政府の成長戦略の数値目標への反映や来年度予算での施策の充実につなげたい考えだ。

17年産米の生産目標、8割が達成

農水省は、17年産米について、おもに市町村単位で設置されている「地域農業再生協議会」ごとの作付動向(4月末現在)を初めて公表した。全国に1500ある協議会のうち、8割強の1240が生産目標を達成する見通し。この背景には、飼料用米への転作が拡大していることがあり、米の需要は引き締まる傾向が続くそうだ。

伊吹の動き

青年部設立総会を開催

青年部設立総会が6月2日に開催。26名の青年部員が集まり、総会が行われた。青年部組織は仲間との交流によって生まれる新たな可能性を各部員が追求し、自己を高めるとともに、地域農業振興とJAの事業運営に積極的に参画することを目的とする。